

令和2年度

事業報告

(令和2年1月1日～令和2年12月31日まで)

公益社団法人 競走馬育成協会

令和2年度 事業報告

公益社団法人競走馬育成協会

概況

令和2年は新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年であった。それでも中央競馬は無観客や入場制限という環境下ではあったが競馬開催を間断なく継続、コントレイル号とデアリングダクト号が牡馬牝馬同時に無敗の3冠馬となり、アーモンドアイ号を交えたジャパンカップは競馬史上に残る世紀の一戦となった。勝馬投票券の発売は春の無観客開催直後に大きく減少したが、その後インターネット投票を中心に徐々に増加、最終的な売得金は対前年比103.5%、9年連続で増加という良好な成績にまで回復した。

令和2年の2歳トレーニングセールについては、九州が上場頭数の不足により休止、北海道と千葉が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となり、JRA ブリーズアップセールはメールによる入札方式に変更された。

このような情勢の中、当協会においては、新型コロナウイルスの影響から、年度当初に予定していた各施策のほとんどを見合わせざるを得ない一年となった。

育成技術講習会については、平成29年より継続して実施し好評を得てきた東西のトレーニングセンターでの実馬を使ったデモンストレーション形式の講習をはじめ、全ての講習会が止むを得ず中止となった。

就業者参入促進事業（BOKUJOB）では、従来実施してきた対面型イベントについて、1月に横浜でのホースメッセにPRブースを展開した以降は取り止めざるを得なかった。可能な施策について検討を重ねた結果、Web上における展開にシフトし、新たに「Web相談会」を企画、6月にBTC及びJBBA研修コースを実施した。この実績を踏まえ、9月に牧場就業コースを実施して好評を得たことから、10月以降も各牧場に対してWeb上における操作や就業促進方法等をレクチャーするとともに、秋季及び冬季のWeb相談会を追加実施した。また、令和元年に新設し関係各所から好評を得た「研修コース体験入学会」については、感染防止を徹底し、参加人員を縮小したうえ日程を分割して実施した。

競走馬育成技術表彰では、会員育成馬の勝利数との該当率が年々高水準を維持しており、会員牧場の育成技術の確かさが示されているが、表彰式については全て取り止めとなった。

その他にも、修学奨励金交付、競馬関連機材の有効活用、利子補給、情報誌発行等の広範囲の事業を展開した。

1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

1) 育成技術講習会の開催（公益事業）

例年、軽種馬の生産、育成、調教に関する知識習得と技術向上を目的とし、広く一般にも参加を呼びかけ、日本中央競馬会（以下「JRA」と表記）及び公益財団法人軽種馬育成調教センター（以下「BTC」と表記）との連携・共催による講習会を当協会の全5地区で

開催し好評を得てきたが、令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、止むを得ず全ての講習会の実施を見合わせた。

2) 競走馬育成調教技術表彰事業（公益事業）

競走馬の育成調教の技術向上を図り、育成調教者の基盤強化及び意欲増進を図るため、優秀な競走成績を収めた競走馬の育成調教者に対する表彰を実施した。

表彰対象 552 競走のうち 332 競走において会員の育成馬が優勝し表彰された。2 歳新馬競走で 77.3%、2 歳重賞・リステッド競走で 80.0%という非常に高い表彰該当率を維持しており、全体でも 60.1%という高い水準となった。このことは各牧場の努力の成果であり、当協会育成牧場を経由することが新馬や重賞競走の勝利に結びつくことを表しているといえる。

対象競走	令和2年			令和元年		
	競走数	表彰件数	表彰率	競走数	表彰件数	表彰率
2 歳新馬競走	247	191	77.3%	243	200	82.3%
3 歳新馬競走	56	44	78.6%	54	38	70.4%
2 歳重賞・リステッド競走 ※①	20	16	80.0%	20	17	85.0%
平地重賞競走 ※②	115	47	40.9%	116	52	44.8%
平地リステッド競走※②	62	23	37.1%	60	18	30.0%
障害重賞競走	10	0	0.0%	10	1	10.0%
上記以外の平地オープン競走 ※③	42	11	26.2%	35	12	34.3%
計	552	332	60.1%	538	338	62.8%

※① 2 歳重賞指定交流（地方競馬施行）4競走、2 歳リステッド2競走含む

※② 2 歳限定競走を除く

※③ 2 歳及び3 歳限定競走を除く

また、例年、競馬施行場で育成協会会長賞表彰を実施している重賞 2 歳ステークス競走 6 競走（札幌・函館・新潟・小倉・京王杯・デイリー杯）では、5 競走で当協会会員の育成馬が優勝し、2 歳重賞競走における会員の高い表彰該当率を裏付けた。しかし、令和 2 年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、競馬場での表彰式を取り止めた。

2. 軽種馬の育成調教に関する調査及び研究（公益事業）

軽種馬の育成調教技術の向上と牧場環境の改善を図るため、新入会の牧場について実態、人材、施設等に関する調査を実施しデータを蓄積した。一方、過去に実施した牧場経営等に関する調査報告については、引き続き当協会ホームページに掲載して情報発信している。

その他にも昨今の労働力不足の実態に鑑み、独自に外国人労働者について基礎的な調査を行った。

3. 軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援（公益事業）

1) 生産育成調教牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材の確保を目的とし、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することによって就業者の参入を促進するため、当協会を中心に JRA・BTC・公益社団法人日本軽種馬協会（以下「JBBA」と表記）・一般社団法人日本競走馬協会の 5 団体で牧場就業促進事務局（BOKUJOB 事務局）を構成して各種事業を展開している。

令和 2 年は、例年実施している「BOKUJOB メインフェア」「BOKUJOB 関西フェア」「牧場見学会」「夏休み牧場で働こう体験会」及びサポートデスク（令和元年までは広報&相談コーナーと呼称）については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から止むを得ず実施を見合わせた。

一方で限られた環境の中、実施可能な施策を模索し、新たに Web 上で就業相談ができないか企画立案、各牧場に対して Web 上における操作や就業促進方法等をレクチャーするとともに「Web 相談会」を実施し Web 上で牧場と参加者の面談を展開した。

① 牧場就業促進ウェブサイトの運営と保守管理

BOKUJOB のウェブサイトは、平成 22 年にオープンし、令和元年 11 月に全面的にリニューアルした。コロナ渦で訪問者は増加、スマートフォンからのアプローチを重視したため、令和 2 年も訪問者数のうち 78%以上がスマートフォン利用者となっている。

	延べ訪問者数	新規訪問者数	新規訪問者数 スマホ利用者内数	スマホ利用率
令和 2 年	203,603	136,393	107,416	78.8%
令和元年	138,613	84,618	64,592	76.3%
平成 30 年	115,610	69,355	50,279	72.5%
平成 29 年	133,912	81,357	54,151	66.6%
平成 28 年	148,923	88,473	54,641	61.8%
平成 27 年	160,488	87,994	51,302	58.3%
平成 26 年	157,194	54,585	28,722	52.6%

※ 平成 30 年は 1~10 月の旧サイトと 11~12 月の新サイトの合計

② PR ブース

令和 2 年は、初めての試みとして、1 月 16 日~21 日に横浜で行われたホースメッセに出展、潜在的なニーズの掘り起こし、BOKUJOB 活動の認知度向上のための広報や牧場業務に関する相談等を行った。

③ 夏休み研修コース体験入学会

競走馬の牧場で働くことに興味がある者を全国公募して夏休み期間中に実施、平成 30

年度までは BTC と JBBA がそれぞれ独自に開催していた牧場技術者研修コース体験入学会を、令和元年度から一部合同での開催とした。令和元年度は3泊4日1回の実施だったが、令和2年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から日程を2泊3日に短縮し、1回の参加人数を10名に限定して、時期の異なる2回に分割し実施した。

研修見学・体験乗馬・厩舎作業に加えて、教官や研修生との交流、双方の施設や限定した関連施設の見学等をまとめて実施することで、BTC と JBBA の技術者養成研修への受験者獲得にもつながるような内容とした。厳しい環境の中で開催したこともあり、研修機関と参加者の双方から好評であった。

- ・Aコース 7月30日～8月1日
- ・Bコース 8月26日～8月28日

④ Web 相談会

新型コロナウイルス感染拡大防止を勘案し、Web 上での就業相談会ができないか多角的に検討を重ねた結果、新たに Zoom アプリを用いて面談を実施する Web 相談会を企画・立案、内容を工夫しながら展開した。初めての試みであったが、研修機関（BTC・JBBA）、参加牧場及び就業希望者から好評を得た。

(1) BTC・JBBA 研修コース

- ・日時：6月27日～28日 9:00～17:00
- ・場所：BTC。JBBA（静内）、本協会本部（新橋）
- ・方式：Web 会議ツール（Zoom）による個別面談（1面談約30分）
- ・就業相談希望参加者数：13名（延べ23面談）

(2) 牧場就業コース（2020夏）

- ・日時：9月12日～13日 9:00～17:00
- ・場所：新ひだか町総合町民センターはまなす（三石）及び参加牧場（自宅）
- ・方式：Web 会議ツール（Zoom）による個別面談（1面談約30分）
- ・就業相談希望参加者数：16名（延べ87面談）
- ・参加牧場数：三石特設会場 7牧場、牧場自宅 13牧場

(3) 牧場就業コース（2020秋～21冬）

牧場就業コース（2020夏）が好評であったことから、10月より随時、BOKUJOB サイトに求人掲載中の牧場に対して Web による就業促進方法等のレクチャーを実施し、12月からレクチャーを受けた牧場と就業希望者の面談のマッチングを行った。

2) 担い手育成事業

例年、生産育成調教の牧場で働く意欲ある人々に必要な馬に関する知識と技術を習得させ、牧場就労担い手としての能力を開発し向上させるため、研修機関への修学や海外研修への派遣を援助しているが、令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外研修への派遣については実施を見合わせた。

① 修学奨励金交付事業

BTC が実施する育成調教技術者養成研修の令和 2 年度入講生 3 名、JBBA が実施する生産育成技術者研修の令和 2 年度入講生 3 名、及び公益社団法人日本装蹄協会が実施する令和 2 年度装蹄師認定講習会入講生 1 名の計 7 名に対して、修学奨励金を交付した。その後、BTC 入講生のうち 1 名、及び JBBA 入講生のうち 1 名の計 2 名については途中退所となったため、修学奨励金の返還を受けた。

② 生産育成技術者海外派遣

例年、生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした研修や長期研修及び短期研修を対象に海外研修への派遣援助をしてきたが、令和 2 年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、全ての海外派遣研修の実施を見合わせた。

4. 軽種馬の育成調教に係わる競争力の向上に対する支援（共益事業）

1) セリ市場の振興

若馬育成調教の成果がセリ市場取引に反映されるように、2 歳トレーニングセールへの地域団体による後援等を実施した。

2) 育成調教施設等の整備に対する助成事業

① 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設の整備等を目的に会員が借り受けた資金の利子負担軽減を図るため、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から軽種馬生産育成強化資金を受け、令和 2 年は新規案件 2 件について銀行申請手続から融資協議会を経て利子補給を開始するとともに、継続案件 11 件についても利子補給を実施し、うち 1 件については令和 2 年中に完済し利子補給が終了した。

② 競馬関連機材等有効活用事業

JRA の施設等で使用を取りやめた競馬関連の機器・資材などを有効に活用するため、令和 2 年は 1 回の抽選会を実施し、トラック 4 台、トラクターショベル 1 台、ライムソワー 1 台、特殊車輛類 3 台、ハロー類 8 台、馬場柵類 5 セットの合計 22 件について募集と斡旋を行った。

③ 畜産近代化リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会の行う畜産リース事業について、令和 2 年は会員からの新規案件の申請はなされなかった。

5. 軽種馬の育成調教に係わる国際交流（公益事業）

例年、競馬先進国との情報交換を進めるとともに、国内や近隣諸国に対して軽種馬の育成調教技術の指導、普及等を通じて国際交流を推進するため、海外派遣研修等を実施しているが、令和2年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、海外派遣研修を止むを得ず取り止め、令和元年に派遣した海外派遣研修について報告書冊子にまとめ発行した。また、情報交換のため関係団体で構成され例年参加している海外流通促進連絡協議会も取り止めとなった。

6. 軽種馬の育成調教に関する情報発信（公益事業）

軽種馬の飼養管理及び育成調教技術の普及並びに改善向上に役立つ情報を提供するため、令和2年も機関誌「いくせい」の58号（10月1日付）を発刊した。

また、協会ホームページ等を利用して、育成調教に係わる情報を広く一般の皆様にも閲覧可能な形で発信した。

7. 協会の運営、組織、その他必要な監査等

1) 総会の開催（定時総会）

2月14日 14:00～ JRA本部9階 第5会議室

議案：令和元年度事業報告及び財務諸表について
令和2年度会費等の額及び徴収の方法について
役員報酬等の支給に関する規程の改正について

2) 理事会の開催

① 第1回理事会（定例）

1月24日 14:00～ 新橋分館5階会議室

議案：令和元年度事業報告及び財務諸表について
令和2年度定時総会の開催について（日程、場所、提出議案）
令和2年度総会における議決権行使書及び委任状について
令和2年度業務委託費の配分方法について

② 第2回理事会（臨時）

2月14日 13:30～ JRA本部9階 第4会議室

議案：令和2年度定時総会の委任状の取り扱いについて

③ 第3回理事会（定例）（書面議決）

12月4日（見なし開催日）

議案：令和2年度事業計画及び収支予算

④ 書面理事会（定款第41条）

5月29日 入会の承認 1件
 7月22日 入会の承認 1件
 8月19日 入会の承認 1件
 11月18日 入会の承認 1件

3) JRA との育成等に関する懇談会

10月2日 13:30～ JRA 本部9階 第5会議室

懇談内容：セリ市場の動向について

育成牧場における人材確保と養成（BOKUJOB）について

育成等を取り巻く情勢について

その他

4) 協会の組織

① 会員数の動向

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
令和1年12月31日	84	10	46	29	18	187	8
増加			2	1		3	0
減少	1		1	1		3	0
令和2年12月31日	83	10	47	29	18	187	8

② 役員の動向

令和2年度は役員改選がなく、役員に変更はなかった。

会長理事	栗田晴夫	非常勤
副会長理事	佐藤光信	常勤 常務理事兼務
副会長理事	飯田正剛	非常勤
理事	荻野豊	非常勤
理事	高橋司	非常勤
理事	諏訪豊蔵	非常勤
理事	沖崎誠一郎	非常勤
理事	中内田克二	非常勤
理事	柏木務	非常勤
理事	宮島成郎	非常勤
理事	織田信美	非常勤
監事	安達正奉	非常勤
監事	杉野繁治	非常勤

③ 職員等の動向

令和元年12月31日	就任・転入	退任・転出	令和2年12月31日
3名	2名	2名	3名